

第2巻 第1号 (通巻第3号) 2013年7月発行

ISSN 2187-0292

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 2, Number 1

2013

特集

第4回 埼玉アクセス研究会 学術集会
プログラム・抄録集
第41回 埼玉透析医学会 PROCEEDINGS-2012



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 2, Number 1

2013

特集

第4回 埼玉アクセス研究会 学術集会
プログラム・抄録集

第41回 埼玉透析医学会 PROCEEDINGS-2012

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

INDEX

巻 頭 言	1
-------------	---

第4回埼玉アクセス研究会 学術集会 プログラム・抄録集

会場案内図・会場見取図	5
参加者へのご案内とお願い	6
記録集原稿執筆要項について	7
プログラム	8
抄 録	
特別講演	12
ランチョンセッション	14
シンポジウム	20
一般演題	26
世話人会一覧	38
協力企業一覧	39

第41回埼玉透析医学会学術集会 PROCEEDINGS-2012

proceedings 目次	43
ブランチセミナー	45
アフタヌーン・ティーセミナー	49
一般演題	51

学術集会開催記録	111
----------------	-----

2013年施設名簿	112
-----------------	-----

埼玉透析医学会会則	114
-----------------	-----

2013年度埼玉透析医学会 役員	116
------------------------	-----

次回開催のご案内

第42回 埼玉透析医学会学術集会・総会

会 期：平成25年12月1日（日）

会 場：大宮ソニックシティホール棟4階 国際会議室
〒331-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5
TEL 048-647-4111

会 長：鈴木 洋通（埼玉医科大学）

募集期間：2013年8月1日～9月30日

演題申し込み方法：オンラインによる演題受付とします。
詳細は、後日アップされる埼玉透析医学会
HP をご覧ください。

事務局：埼玉医科大学国際医療センター
血液浄化部 / ME サービス部
〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1
TEL：042-984-0564
FAX：042-984-0564
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

埼玉透析医学会誌

巻 頭 言



埼玉透析医学会会長

鈴木 洋通

日本では去年初めて家庭血液透析が全体の0.1%を越えたことが報告された。日本では施設透析が全透析患者の95%近くを占めており、透析導入にあたって殆どの人が事実施設透析を希望する。これにはいくつかの理由が挙げられ、通り一遍の解説も成されている。このことは極めて日本的な状況を端的に示していると云っても過言ではない。隣の人と同じであることが日本人にとっては最も安心であり、さらに現在透析導入の平均年齢が70歳近くであり、受けている人々も70歳を越えている。この世代は物心がついた頃から日本の復興を見てきた。それは正に日本株式会社と云われる均一な社会システムの中で暮らしてきた習性がしっかりと身についている世代と云っても過言ではない。これらの人々が全体の70%近くを占めていることは、そこで働く医療スタッフにも奇妙な安心感を与えているのではないだろうか。

さて、世間では透析になったらお終いという言葉が患者側と医療側にあり、透析医療そのものが何か忌み嫌われている様な印象を受けているのは私だけではない。では何故透析をするのか。これは生に対するひとつの幻想、医療は長生きをさせる道具として捉えられているからではないだろうか、しかし最近の世の中を見てみると驚くべきことに書店の本棚には大往生とか、いかに死ぬかという今までとは異なった類の本が多く並び始めている。すなわち今透析医療を受けている世代は先程述べた様にとにかく人生を楽しむのではなく、ひたすら走ってきた世代であり、それだけ長く生きるということへの執着が強いと思われる。しかしそれに代わってくる世代は少し異なっている世代ではないかと思われる。一方当然のことではあるが医療スタッフの側も若い人が多くなってきている。

埼玉をはじめとする首都圏では急速な人口の高齢化が予想されていることから新しい形の透析医療—施設透析であっても、長時間型やあるいは在宅血液透析と組み合わせ(1週間に1回施設で行う等)—を是非模索して行って頂きたい。従来の発表に捉われない自由な試みを発表し、それを討論する場に埼玉透析医学会がなればと密かに願っています。

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, providing a template for text entry.

4th Saitama Society For
Dialysis Access

Abstract 2013

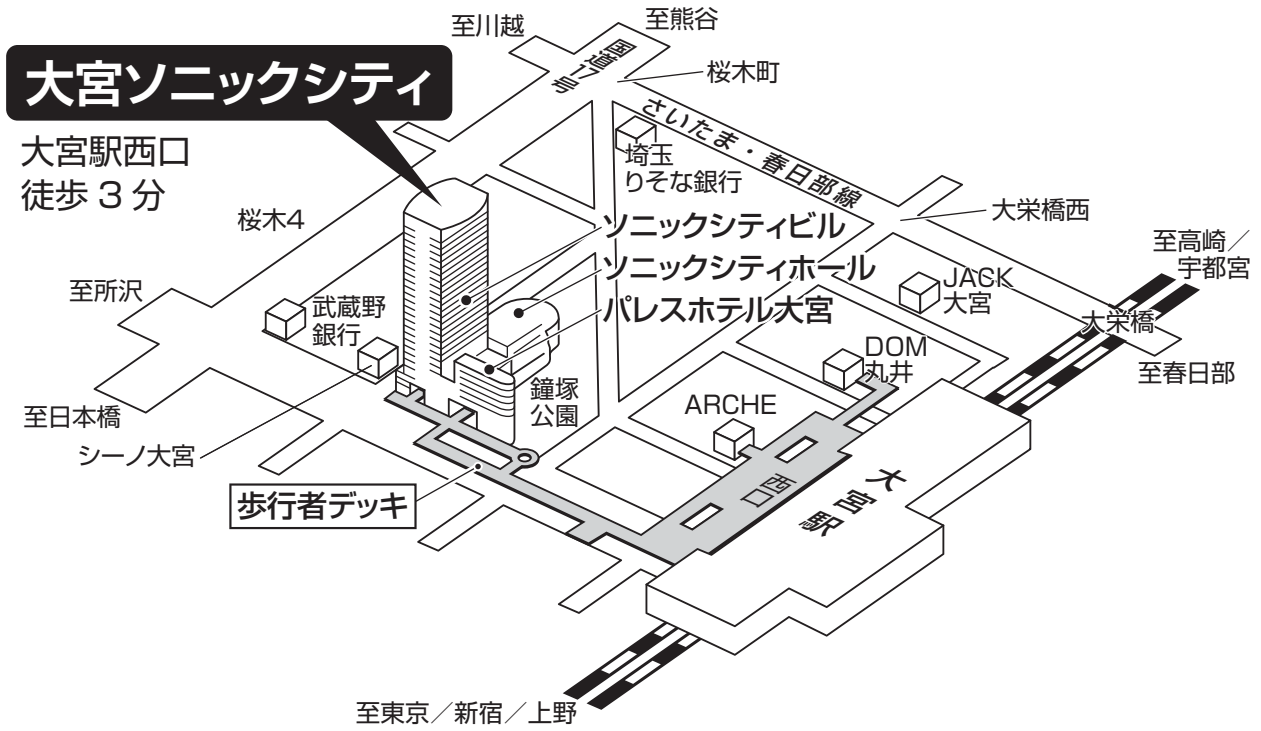
第4回埼玉アクセス研究会

- ・会 長：下山 博身 (友愛クリニック)
- ・副会長：中川 芳彦 (南町クリニック)
- ・日 時：平成25年7月21日(日) 9:30～
- ・会 場：大宮ソニックシティ 国際会議室 (ホール棟4階)

共催：埼玉透析医学会

事務局：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981
埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部
TEL：049-228-3523 / FAX：049-226-6822
URL：http://www.saitama-med.ac.jp/kawagoe/
E-mail：jinkojin@saitama-med.ac.jp

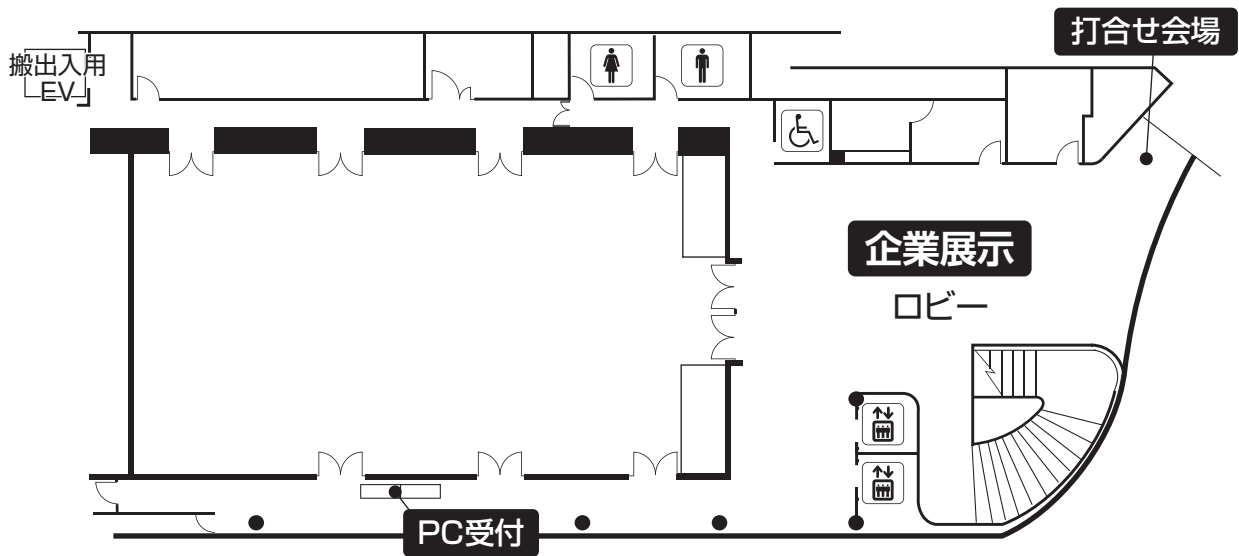
会場案内図



お問い合わせ
 財団法人埼玉県産業文化センター（大宮ソニックシティ）
 〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1丁目7番地5
 ソニックシティビル5階 私書箱75号
 TEL：048-647-4111 TEL：048-647-4159

会場見取図

(大宮ソニックシティ 4F 国際会議場)



参加者へのご案内とお願い

■参加者の皆様へ

1. 会 期 平成25年7月21日(日)
2. 会 場 大宮ソニックシティ 4階 国際会議場
(さいたま市大宮区桜木町1-7-5)
3. 参加受付時間 9:00開始
4. 開演時間 9:20～16:30
5. 参加費 1,000円
6. 発言される際はマイクを使用し、最初に所属と氏名を明らかにして下さい。限られた時間内に討論ができるように、予めマイクの前にお並び下さい。
7. 携帯電話のご使用はロビーとし、会場内ではマナーモードの設定をお願いします。
8. クロークでは貴重品のお預かりはできませんのでご了承下さい。
9. 会場内の喫煙は禁止されておりますのでご了承下さい。
10. プログラムが円滑に進むよう、質問のある方は、速やかにマイクの前でお待ちください。
11. 一般演題の中から厳正な審査を行い、優秀演題に対して表彰を行います。
12. 5学会合同認定“透析療法指導看護師”の受験資格ポイント取得対象会として認定されています。

■埼玉透析医学会の役員、埼玉アクセス研究会世話人、司会・座長の方へ

演題の審査表を受付にてお受け取りください。審査後は受付へのご提出をお願いします。

■司会・座長の方へ

1. 開始予定時刻10分前までには次司会・次演者席へ、ご着席下さい。
2. 限られた時間内で発表が円滑に進むよう、質問・討論を希望される参加者がいる場合は、司会者が指名し質問・討論が速やかに行われるようご指示下さい。

■演者の方へ

1. 一般演題は発表7分、討論3分とさせていただきます。
2. 発表方法はデジタルプレゼンテーション(パソコン発表)のみとします。
3. 発表時間1時間前までにUSBのメディアを持参し、PC受付でご確認ください。
4. プレゼンテーションはwindows/Power Pointでの作成に限らせていただきます。
5. スライドの枚数制限はありませんが、発表時間を厳守してください。
6. 埼玉透析医学会会誌に掲載する原稿を8月末までに事務局へご提出ください。

記録集原稿執筆要項について

本学術大会でご発表された内容は『発表論文』として収載して頂くことをお願いしております。つきましては、下記の通りご協力をお願い申し上げます。

特別講演

ご担当頂いた講演・セミナーについて総説としてご執筆賜りたくお願いいたします。

一般演題

ご発表頂いた演題についてご投稿下さいますようお願いいたします。

シンポジウム・ランチョンセッション

ご発表頂いた演題についてご投稿下さいますようお願いいたします。

記録集原稿について

- 文字数：4,000文字程度を目安にご執筆ください。
- 原稿：原稿はWordにてご執筆ください。
図表はPowerPointにて、モノクロ画像に適したものに变换の上、添付くださいますようお願いいたします。
推奨アプリケーション：原稿→Word2003 図表→PowerPoint2003
Office2007・2010で作成の場合は、97-2003の文書形式に変換して御投稿下さい。
図表は“モノクロ画像”に限ります。
- 執筆：題名、所属、氏名(ふりがな)、共同演者所属(ふりがな)、共同演者名(ふりがな)、本文、参考文献、図表、図表の説明でお願いいたします。
- 送付：E-mailまたはCDにて送付してください。
※原則として送付いただいたメディアは返却致しませんので、予めご了承ください。
- 原稿送付先：
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981
埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部
TEL：049-228-3523 FAX：049-226-6822
E-mail：jinkojin@saitama-med.ac.jp
- 提出締切：2013年8月31日(金曜日)

第4回埼玉アクセス研究会(共催:埼玉透析医学会) プログラム

平成25年7月21日回
9時00分 開場 9時30分 開会

開会挨拶 9:20~9:30

埼玉透析医学会 会長 鈴木 洋通

埼玉アクセス研究会 会長 下山 博身

一般演題1 9:30~10:10

座長: 塩見 大輔(社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院)
清 正夫(埼玉社会保険病院)

01-1 Echo 下 VAIVT における血栓除去カテーテル E-VAC の使用経験
医療法人社団 望星会 望星病院 原 正彦 他

01-2 VAIVT 時のバルーン通過困難症例に対する pull though 法の有用性
自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科 濱本 耕平 他

01-3 当グループにおける動脈表在化症例の検討
(医)かみのクリニック 富田 哲也

01-4 バスキュラーアクセス作成困難例に対し右大腿ループグラフト留置術を施行した一例
社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院 清水 将継 他

一般演題2 10:10~10:50

座長: 木場 藤太(埼玉医科大学総合医療センター)
中西 康博(さいたまほのかクリニック)

02-1 当院における VA 超音波検査の現状
戸田中央医科グループ 戸田中央総合病院 丸山 智恵子 他

02-2 超音波装置を用いたバスキュラーアクセス管理の現状
埼玉医科大学病院 血液浄化部 小林 祐子 他

02-3 当院におけるバスキュラーアクセス管理
北朝霞駅前クリニック 加藤 勇貴 他

02-4 透析モニター HD02 の有用性の検討
医療法人博友会 友愛三橋クリニック 増田 智弘 他

特別講演 11:00～12:00 (共催：中外製薬株式会社、ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社)

司会：小川 智也 (埼玉医科大学総合医療センター)

本邦におけるアクセス血管内治療の変遷と近未来
—透析医の果たす役割—

佐藤 隆 (名古屋共立病院バスキュラーアクセス治療センター 名港共立クリニック)

ランチョンセッション 12:20～13:40 (共催：協和発酵キリン株式会社、ニプロ株式会社、扶桑薬品工業株式会社)

司会：小辻 聡 (埼玉県臨床工学技士会)

友菊 香 (秀和透析クリニック)

コメンテータ：木場 藤太 (埼玉医科大学総合医療センター)

バスキュラーアクセス (VA) トラブルを予防する取り組み
—各施設の工夫から学ぼう—

パネリスト：原 正彦 (望星病院：臨床工学技士)

南 裕子 (さくら記念病院：看護師)

中島 要 (さいたまほのかクリニック：臨床工学技士)

勝呂 由美子先生 (上尾中央総合病院附属エイトナインクリニック
：看護師)

一般演題3 13:50～14:30

座長：濱本 耕平(自治医科大学附属さいたま医療センター)
桑折 しのぶ(みさと健和クリニック)

- 03-1 在宅血液透析患者へ介助者と連携した自己穿刺への支援
埼玉医科大学総合医療センター 関 典枝 他
- 03-2 メディキット社製ハッピーキャス SV の使用経験
医療法人一心会 伊奈病院 臨床工学科 船山 恵美 他
- 03-3 透析中の実血流量の変動は何に影響するのか？
尚篤会 赤心堂病院 大澤 恵里 他
- 03-4 カフ型バスキュラーカテーテルを活用した高齢患者の日帰り血液透析導入を経験して
埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部・腎高血圧内科 小川 智也 他

シンポジウム 14:40～16:10

司会：四宮 敏彦(友愛バスキュラーアクセスセンター)
中川 芳彦(南町クリニック)

バスキュラーアクセス(VA)困難患者に対する取り組み
～直接穿刺からAVG、表在化まで～

シンポジスト：四宮 敏彦(友愛バスキュラーアクセスセンター)
中川 芳彦(南町クリニック)
末吉 慶多(埼玉医科大学国際医療センター 血液浄化部)
塩見 大輔(埼玉石心会病院)

閉会式・表彰式 16:10～16:30

埼玉アクセス研究会 会長 下山 博身
埼玉アクセス研究会 副会長 中川 芳彦

特別講演

特別講演

共催：中外製薬株式会社、ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

本邦におけるアクセス血管内治療の変遷と近未来 — 透析医の果たす役割 —

佐藤 隆

名古屋共立病院バスキュラーアクセス治療センター
名港共立クリニック

日本透析医学会のデータによると2011年度末の慢性透析患者数は約304,592人と報告されており、現在では約31万人にのぼると推察される。これらの95%以上は血液透析患者であり、バスキュラーアクセス(VA)の長期的機能維持はわれわれ透析医にとって重要な課題である。さらに患者の高齢化、糖尿病や腎硬化症の増加とともに血管は荒廃を来し、自己血管内シャント(AVFs)作製が困難な症例や人工血管内シャント(AVGs)は増加傾向にある。このような状況下でバスキュラーアクセスインターベンション治療(VAIVT)は外科的再建術前の第一選択肢として地位を確立した感がある。本邦におけるVAIVTは1984年、福岡大学第二内科：佐々木らの報告(第17回九州人工透析研究会)に始まり、早期論文としては1989年、N.Kogaらの『Angioscopy in Transluminal Balloon and Laser Angioplasty in the Management of Chronic Hemodialysis Fistulae』(Trans Am Soc Artif Intern Organs)、1991年、佐藤らの『経皮的血管形成術』(日本臨床別冊)があげられる。その後、約20年間を経て2012年、VAIVTに対し保険点数18,080点が設定されるに至ったが、この間、最も進歩を遂げたものはバルーンカテーテルの耐圧能向上や多様化であり、一方ではVAIVT施行間隔の規制(3ヶ月ルール)や一治療当りのバルーンカテーテル使用本数の制限、頻回再狭窄例に対し有効なデバイスとされるステントのなど、New deviceの導入や臨床使用は制限されてきたといえる。これに対し放射線科や循環器科がVAIVTに深く関与してきた諸外国ではDrug Eluting Balloon(DEB)やカバードステントの有効性に関する報告がなされており、VAIVT領域で本邦からNew deviceの治療成績を発信することは極めて困難な状況にあるといえる。本邦におけるVAIVTの特徴は日常的に透析医療に従事する透析医がアクセス管理の一環として施行しており、手技のみに固執することなく、適宜、最良の治療法へ移行する自由度を有していることと思われる。さらに興味あることは2000年、USAで“the American Society of Diagnostic and Interventional Nephrology.(ASDIN)”が設立され、「Guidelines for training, certification, and accreditation for hemodialysis vascular access and endovascular procedures」の提唱とともにInterventional nephrologistsの概念が普及しつつあることである。すなわちCKD管理のみならず腎生検、透析用カテーテルの挿入、初回VA作製、VAIVTなど一連の透析関連手技をNephrologistで完結させようとする原点回帰の動きとも考えられ、本邦の透析医業務と重複する部分が多い。本邦の透析医は当初より透析患者管理のみならずVAの作製・管理、VAIVTなどに深く関与しており、今後は必要に応じて放射線科医・血管外科医など専門医の助力を得る体制を強化するとともに、頻回再狭窄例に対する治療方針の確立を必要とされている現在、適切な治療時期決定のためのモニタリング技術の構築など「合理的かつ医療経済的プランニング」を含めた総合的治療戦略の確立が透析医に求められるものと考えられる。

一般演題

一般演題

01-1

Echo 下 VAIVT における血栓除去カテーテル E-VAC の使用経験

○原 正彦(ハラ マサヒコ)¹⁾、国谷 昇¹⁾、奥田 真澄²⁾、木野 恭子²⁾、
須賀 優²⁾、北岡 建樹²⁾、白井 哲夫³⁾

1) 医療法人社団 望星会 望星病院、2) 医療法人社団 望星会 望星病院 腎臓内科、

3) 医療法人社団 望星会 望星クリニック 泌尿器科

一般的に、穿刺ミスの繰り返しは VA の長期的予後には不良とされ、血液透析を継続するためには、十分な血液量が得られ穿刺が容易な VA を確保することが必須である。しかし、作成された VA は、多種の形式であっても、経時的にその形態・機能が変化を生じ修復術や再建術が必要となる可能性が高いと言われている。このため VAトラブルは、維持透析患者が、長期間透析を受ける上で避けて通ることができない現実である。

スコアリングや再循環率、超音波診断など VA モニタリングにより VA 狭窄に対して適切なタイミングの VAIVT を施行しているケースがほとんどであると考えますが、これらのモニタリングを駆使しても突然閉塞になる症例も少なくない。

VA 閉塞に対しては、治療の第一選択が外科的治療かインターベンション治療を施行するかは施設によって様々であるが、近年では、デバイスの向上と共に急性閉塞症例に対する、インターベンション治療である経皮的血栓除去術が施行されているケースが多い。

ニプロ社製により開発された新しい血栓除去カテーテル E-VAC は、VA 閉塞の治療用にデザインされた血栓吸引カテーテルであり、ガイドワイヤーを残したまま繰り返し操作できることが最大の特徴である。吸引孔も大きく、カモノハシ状の形状であり、専用の吸引器を併用することで持続吸引が可能である。構造的にも特殊であり従来製品と比較すると若干煩雑であると思われる。

今回、ニプロ社製にて開発した新しい血栓除去カテーテル、E-VAC について Echo 下 VAIVT で使用する経験を得たので、その有用性について報告する。

41th Annual Meeting of Saitama
Society for Dialysis Therapy

Proceedings 2012

第41回埼玉透析医学会学術集会 Proceedings

第41回埼玉透析医学会 Proceedings

目 次

ブランチセミナー

(共催：中外製薬株式会社)

在宅血液透析の現状と今後

演者：(医)桂水会 岡病院、埼玉医科大学病院腎臓病センター 菅原 壮一

アフタヌーン・ティーセミナー

(共催：協和発酵キリン株式会社)

終末期における慢性血液透析療法の見合わせ

演者：日本大学医学部 内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野 岡田 一義

一般演題

透析患者の“睡眠障害”に関するアンケート調査

春日部内科クリニック 看護部 八角 一久 他

自己管理不良症例に対する在宅血液透析(HHD)移行へ向けての看護師としての取り組み

さくら記念病院 看護部 千葉 織江 他

腎センターにおける看護師のストレスについて

埼玉社会保険病院 三浦 美和子 他

On-line HDF 施行時における流量バランス制御の安全性評価

埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部 濱田 雅美 他

安全な出張透析を施行するための配管環境に関する検討

埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部 田中 慧 他

当院における心機能評価を含めたバスキュラーアクセス(VA)管理の現状

さくら記念病院 岸 寛信 他

Vascular Access 管理における超音波エコーの活用と臨床工学技士の役割

埼玉医科大学総合医療センター ME サービス部 落合 重夫 他

抜針時における静脈圧変動の検討

埼玉医科大学病院 血液浄化部 阿部 聖也 他

透析患者は薬を減らしたいと思っている；薬剤師の視点から

医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 松倉 泰世 他

慢性維持透析患者に対する ASV の有用性の検討

さくら記念病院 島口 豊 他

CKD 患者における線維芽細胞増殖因子 (FGF-23) の血中濃度に関する検討

医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 石原 力 他

迅速な診断・加療にて救命し得た感染性心内膜炎を罹患した血液透析患者の一例

獨協医科大学越谷病院 腎臓内科 吉野 篤範 他

下血、貧血の一因である S 結腸腫瘍 (グループ 4) に対して留置スネア絞扼術を
施行した 1 透析症例

医療法人 シャローム鋤柄医院 鋤柄 稔 他

当院における生菌検査日の比較検証

社会医療法人財団石心会 さやま腎クリニック CE 室 佐藤 歩 他

当院での水質管理微生物検査の妥当性の検証

社会医療法人財団石心会 さやま腎クリニック 野本 洋平 他

透析液キンダリー 4 号を使用した症例報告

自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床工学部 岡田 ひとみ 他

カーボスター長期使用における栄養改善効果の検討

埼玉医科大学病院 血液浄化部 徳岡 龍之介 他

埼玉透析医学会 会誌

発行日：2013年7月21日

発行：埼玉透析医学会

発行人：会長 鈴木 洋通

編集：埼玉透析医学会 事務局

事務局：埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部

〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL・FAX：042-984-0564

URL：http://www.ssdt.jp/

E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

編集責任者：塚本 功

編集委員：高根 裕史 小川 智也 金山 由紀 山口 由美子

村杉 浩 秋元 照美 土屋 陽平

出版： 株式会社セカンド
http://www.secand.jp/

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

定価：2000円